

# 収益増へ高機能品にシフト

## 古河電工 産業電線 アルミ電線拡販にも注力

古河電工産業電線（F E I C、本社・東京都荒川区東日暮里、小塚崇光社長）は、収益アップを図るためアルミ電線の拡販に注力するとともに、高機能製品など高付加価値製品へのシフトに取り組んでいる。23 年度業績は、増収増益を見込む。

### 売上げ 265 億 利益 15 億 25 年度計画



小塚 崇光社長

F E I C は、古河電工グループの汎用電線の主力拠点だったが、20 年 4 月設立の古河電工と S W C C の合併会社 S F C C（本社・川崎市川崎区日進町、川瀬幸雄社長）に 22 年 7 月に汎用電線製造業を譲渡している。

F E I C はすでに北陸甲府工場を閉鎖していたが、汎用電線事業譲渡を機に、栃木工場も閉鎖し設備の一部は S F C C 茨城工場に移譲。現在はアルミ電線などの平塚工場（神奈川県平塚市東八幡）と、機能製品中心の九州工場（北九州市門司区）の 2 拠点体制となっている。

同社の 23 年度売上高は、需要が上向くもの高い販にも力を入れる。

22 年度売上高は、需要停滞や銅価の影響もあり 223 億円で前年度を約 7% 下回った。営業利益は、原材料高を原価低減や販売価格正でカバーして、前年度比では倍増だった。

F E I C は、S F C C 設立以前から高付加価値へのシフトを進めており、すでに同社の高機能製品の売上高比率は 50% 以上を占める。25 億円の中期経営計画では、25 億円の引き上げる方針。

同社の中計では 25 年度に売上高 265 億円、営業利益 15 億円としている。また、

伸びは難しいとの見方で、230 億円と前年度比 3% 増程度の見込みだが、営業利益は固定費削減や販売価格正などで、前年度比倍増以上を目指す。

アルミ電線は、先ごろ公共建築工事標準仕様書に採用され、工事現場での盗難防止でもクローズアップされており、拡販へのプラス要因となっている。

同社の 23 年度売上高は、需要が上向くもの高い販にも力を入れる。

同社の中計では 25 年度に売上高 265 億円、営業利益 15 億円としている。また、

アルミ電線は同社が製造し、S F C C が販売しているが、アルミ電線の普及を図るため同社は、ユーザーを対象に平塚工場内に「らくらくアルミケーブル技能訓練センター」を設けている。また、アルミ電線の新規分野での拡販にも力を注ぐ。さらに小塚社長は「アルミ電線の安定供給はもとより、汎用電線の O E M 供給によるサポートなど、S F C C とのさらなる連携強化を進める」と話す。

アルミ電線は、先ごろ公共建築工事標準仕様書に採用され、工事現場での盗難防止でもクローズアップされており、拡販へのプラス要因となっている。

同社の 23 年度売上高は、需要が上向くもの高い販にも力を入れる。

同社の中計では 25 年度に売上高 265 億円、営業利益 15 億円としている。また、

### 8 月の品種別出荷

品 種	数 量 (実績)	前 月 比	前 年 同 月 比	金 額 (実績)	前 月 比	前 年 同 月 比
裸 線	2,544	▼16.5	▼15.1		▼5.8	▼6.8
巻 線	9,552	▼13.9	3.7		▼2.5	5.6
機器用電線	2,852	▼8.6	▼11.9		▼5.3	▼8.4
通信用電線・ケーブル	1,026	▼6.8	2.0		▼4.9	12.5
電力用電線・ケーブル	17,219	▼6.0	2.2		▼0.2	6.6
被覆線	8,656	▼5.8	▼5.3		▼4.8	4.8
輸送用電線	5,089	▼15.6	0.7		▼0.8	28.5
銅電線計	46,938	▼9.6	▼1.2		▼2.1	11.3
E M 電線・ケーブル (上記の内数) 機器用電線計	2	0.0	▼33.3	24	14.3	71.4
通信用電線・ケーブル	52	▼7.1	4.0	215	0.9	1.9
電力用電線・ケーブル および被覆線	2,294	2.8	0.5	4,347	5.9	12.4
計	2,348	2.5	0.6	4,552	4.8	12.0
アルミ電線計	2,265	0.1	45.7	2,940	▼7.1	30.1
光製品 内光ファイバ ケーブル・コード	2,320,628	▼14.5	▼38.3	19,807	▼9.4	▼19.1
				4,809	4.2	▼16.4

(注) E M 電線・ケーブルは J C S 規格の 25 品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプの電線は含まれない。四捨五入のため計が合わない場合がある。光製品の数量は k m c。▼は減。

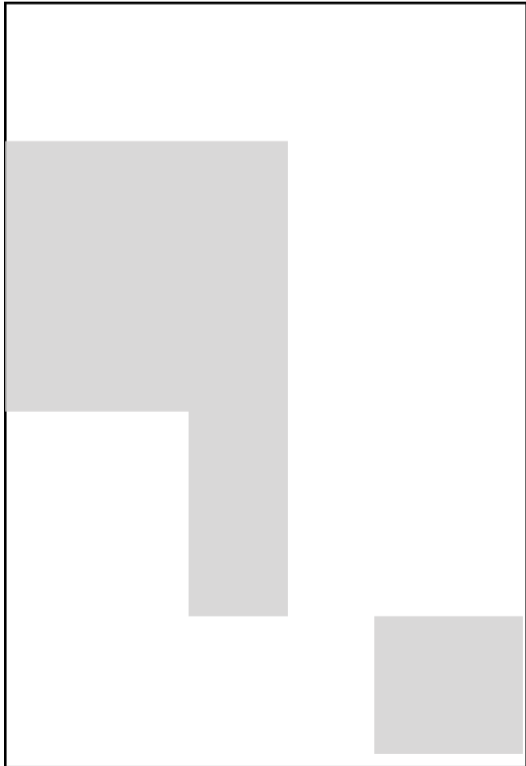
低炭素化、防災・減災、次世代インフラなどへの対応が重点課題。低炭素化への貢献では、再生可能エネルギー関連に注力。太陽光発電向けに軽量・高施工性のらくらくアルミケーブルの拡販に取り組む。

風力発電の地上部分向けでもアルミケーブルとともに、高柔軟性・高耐熱性のゴム絶縁電線の新製品開発にも注力。

防災・減災では、データ向けを中心に復旧作業時の取り換えが容易な、P I C コネクタ付きケーブルなどの売り上げ増を図る。また、次世代インフラ向けでは、P I C コネクタ付きケーブル

らくらくアルミケーブルを採用 大和ハウス工業 古河電工(本社・東京都千代田区大手町、森平英也社長)は10月19日、同社とグループ会社の古河電工産業電線(同・東京都荒川区東日暮里、小塚崇光社長)が開発・製造。S F C C(同・川崎市川崎区日進町、川瀬幸雄社長)が販売する、アルミ導体幹線分岐

付きケーブル「ハイブリック D B H」、銅導体「アルミ導体複合ケーブル」「ハイブリッド C V T」、高機能型低圧アルミ導体 C V ケーブル「らくらくアルミケーブル」が、大和ハウス工業が展開する分譲マンション「プレミスト北谷伊平 S e a & F o r e s t」、「プレミスト首里金城町」、「プレミスト浦添港川」の幹線に採用されたと発表した。



掲載位置